

令和5年3月定例会

コミュニティースクールの円滑な推進を

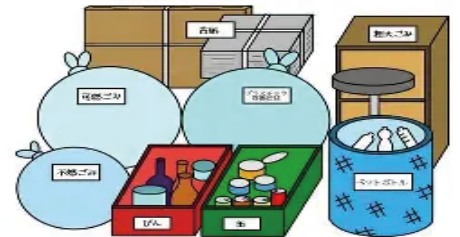
地域の課題と学校の教育現場での課題解決の向け、相互の連携強化を。子どもたち個々問題や悩みを解決しだれ一人取り残さない体制づくりを。

※中学3校区を中心に、小学校区地域と連携を進めます。



ごみ排出量の総量削減と古布の徹底した回収とリサイクルを。

プラスチック類、古布類はリサイクル率はまだ低く可燃ごみに混入し二酸化炭素の発生源となっている。今、環境意識の高まりによりマイボトルの利用や詰め替え容器を利用し使い捨て容器は使わないなど、消費行動にも変化が見える。が未だプラスチックによる海洋汚染は深刻。ワンウェイプラスチックの削減、リターナブル容器利用促進などの具体策を。



衣料の年間供給量は約81万トン。その8割が回収されず可燃ごみとして廃棄される。リサイクル率は15.6%。1秒間にトラック1台分の古布が廃棄されている。待ったなしの状態。

古布の回収業者と回収システム作りについて、話し合いはこれまで進めてきた。ぜひ公共施設や民間の大型量販店と提携し

古布の回収ボックスの設置を。

令和5年6月定例会

商工+農業のバランスの取れた振興策を

4キロ四方の限られた面積の知立市では企業誘致と農業振興は相反する面がある。本来農業(1次産業)と商工(2次3次産業)とは別政策と考えられがちだが、地域の農産物と加工さらに流通を合わせた6次産業化本市にはふさわしい。車産業のみならず食品産業の誘致対象とし、農と商工のバランスを。

一次産業 × 二次産業 × 三次産業 = 6次産業



環境問題を身近に

コミュニティースクール構想の中で環境を軸とした地域連携をはかり子供たちの環境意識づくりを。エコキャップ運動はわかりやすく有意義だが現在停滞している。早急に復活すべき。

高度成長期以降も生産、利用、廃棄の構図は変わらない。資源の再生、再利用を前提とした資源循環型社会づくり(サーキュラーエコノミー)を官民一体で進めゴミを出さない環境づくりを。

